

授業科目名 <英訳>	西南アジア史学(特殊講義) West Asian History (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名	人文科学研究所 教授 稲葉 穰					
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2018・ 後期	曜時限	水4	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目	初期イスラーム時代イラン社会の様相：ディフカーンを題材に										
【授業の概要・目的】											
初期の大征服によって東方へと拡大したイスラーム世界は様々な伝統をもつ地方社会と直接接触することになった。もちろん、イスラームの信仰や文化はそれら土着の文化を塗りつぶすのではなく、相互に影響を与え合って、多様なイスラーム社会を格知に産み出した。本講義ではイスラーム時代初期の東部イラン世界を題材に、地方レベルでイスラームと伝統社会がどう関連し、影響を与え合い、変容したのかを、在郷地主層と考えられているディフカーンの存在を手掛かりに考察する。											
【到達目標】											
21世紀に入り、イスラーム世界を巡る様々な紛争は、前世紀のそれと性格を異にし始めている。すなわち、イスラーム世界と非イスラーム世界の対峙という軸が薄れ、イスラーム世界内部における様々な差異、軋轢を巡る抗争が主軸となり、そこに他の国々が関与するという状況が顕在化していると言える。そうであるならひとつの問題は、なぜイスラーム世界の中にそのような多様性、差異、軋轢が生じたかという点にあると考えうる。本講義を通じ、イスラームが地域化する具体的な機序を考察した上で、それをイラン世界、中央アジア世界以外の状況と比較することにより、イスラーム世界と呼ばれるものを別の角度から眺め、相対的に考察することが可能になる。											
【授業計画と内容】											
第1回 イン트로ダクション 第2～4回 イスラーム化前夜のホラーサーンとマーワラー・アンナフル 第5～12回 イスラームと地域社会 (J. Paul, State and Military: Samanid case; 同 Where did Dihqans go を題材に) 第13～14回 他地域社会のイスラーム化との比較 第15回 まとめ											
【履修要件】											
特になし											
【成績評価の方法・観点及び達成度】											
平常点の評価(50%)と期末レポート(50%)で評価する。講義内容に関連する文献を授業中に会読し、その内容を平常点として加味する。期末レポートについては到達目標の達成度に応じて採点する。											
【教科書】											
授業中に指示する											
----- 西南アジア史学(特殊講義)(2)へ続く -----											

西南アジア史学(特殊講義)(2)

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

授業中に別途指示する

(その他(オフィスアワー等))

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。